

平成 21 年度 第 5 回市長タウンミーティング議事録

とき：平成 21 年 4 月 19 日(日)

午後 2 時～3 時 30 分

ところ：北町公民館

参加者：52 人

○市長あいさつ

(市長より、平成 21 年度の施策・予算について説明が行われました。)

○意見交換

質問（男性）

蕨市の借金は、昨年度、全会計で約 7 億円減らして、今年度は 5 億 5 千万円減らすそうですが、その借金の総額はいくらなのでしょうか。また、10 年後の蕨市の姿（長期的ビジョン）はどう考えていますか。

回答（市長）

蕨市の借金の総額は、一般会計から企業会計及び土地開発公社までを含め、平成 20 年度末、全会計で約 348 億 9,000 万円でしたが、平成 21 年度末には約 343 億 3,000 万円となります。市民一人当たりにしますと、約 50 万円です。

市の長期ビジョンにつきましては、「安全・子どもたち・健康・商店街（地域経済）」を施策の柱として、暮らしやすいまちづくりを目標としています。それらを実現していく方法としては、地域力、いわゆる市民と行政との協働のまちづくりが決め手と考えています。特に、市民の力によってまちの水準が決まるといわれている今、最も力を入れたいと考えているのは、コミュニティビジネスという分野です。それは、ボランティアや NPO だけに限らず、利益追求に固執せず、地域の要求に応えながら、まちづくりの財源は自分たちで生み出していこうという、新たなビジネスの分野です。コミュニティ活動が盛んな蕨市には、それを成功させる土台が十分あると思われる所以、団塊の世代の人材を活かすなどして、その仕組みを広げていきたいと考えています。

質問（男性）

保健センター主催の健康教室に参加したところ、メタボ健診で体重が 5 kg も減りました。現在は栄養教室にも参加しています。こうした保健センターのすばらしい取り組みは、市

民の誰もが健康になれるよう、市全体として取り組んでほしいと思います。

また、市立病院の赤字を解消するには、最先端医療を導入するなど、特徴や特色を持たせる必要があるのではないかでしょうか。

回答（市長）

蕨市の健康づくりの目標は、「健康密度も日本一へ」というスローガンの下、保健センターの職員が一生懸命取り組んでいます。今後も、日常でも気軽にできる健康づくりを保健センター職員とともに進め、市民のいつまでも健康でありたいという思いに応えていきたいと考えています。

市立病院の件は、ベッド数が130床など施設面での課題もあるなか、まず医師の確保がたいせつであると考えています。特徴ある病院として、ご意見をいただいたようなものを含め、これからもさまざまなことにトライしていきたいと考えています。

質問（女性）

市制施行50周年事業の「なんでも鑑定団」に出品してみたいと思いますが、刀剣や江戸時代の古い地図など、蕨市以外に関するものも大丈夫でしょうか。また、どういうものが出品対象となるのでしょうか。

回答（市長）

蕨市に関するものに限らないので、なんでも出品していただきたいと思います。出品していただくと、番組スタッフから電話連絡が入り、そこで話しおかから、ご自宅にある新たなお宝が見つかる可能性もあるそうなので、遠慮なく、まずは市の応募用紙にて申し込んでください。

質問（男性）

市政運営を行うなかで、国や県の行政などと意見が異なると、いやがらせなどで補助金が貰えにくくなるなど、地方はいろいろやりにくいことが起こるとテレビで放映されていましたが、蕨市ではどうでしょうか。

また、先日、ある市議団から蕨戸田衛生センター事務局長と消防長の人事に関する攻撃的な文書が出ていましたが、そうした意見に対する市長の考え方をお聞かせください。

回答（市長）

蕨市は国や県からは嫌がらせは受けていないのでご安心ください。例えば国の補助金の場合、平成20年度と平成21年度を比べると、平成20年度は、さまざまな事業で約20億、平成21年度は約26億と6億円増えています。今年度の予算が増えたのも、こうした国庫補助が増えたことがあります。あの人気が気に入らないからという理由などで、補助金などを減らすことはできない時代です。

一方で、道路を作る場合などに発生する国の直轄事業など、制度としての問題点が国や県にあります。例えば、市役所通りは県道ですが、県は5分の1の負担を市に求めてきています。また、妊婦検診につきましては、国が2年間で補助をなくすと決めていることなど、おかしな問題はさまざまあります。そこで、各市の市長で組織する市長会を通じて、問題提起したり、市を運営する上で必要なものは求めたりするなどして、市として国や県に多くの意見を上げているところです。

蕨戸田衛生センター事務局長と蕨市消防長の人事異動の件につきましては、市長タウンミーティングの各会場でも質問がありましたので、同様にお答えします。

まず、蕨戸田衛生センターは、ごみの処理を蕨市と戸田市の共同で行うために造ったもので、責任者が蕨市長の私で、副責任者が戸田市長となっています。センターは現在、焼却炉の延命化など大規模な事業を抱えています。新しく造り直すと約150億円かかりますので、現在は経費が10分の1程度で、あと15年程度使用できるよう、4年間をかけて事業を行っており、今年で3年目となります。また、ごみを堆肥や草花と交換できる全国でも珍しい試みである「リサイクルフラワーセンター」をこの秋から立ち上げる計画もあります。いずれも重要な事業であるため、蕨戸田衛生センター事務局長につきましては、前蕨市長のころから事務局長を務めており、同センターを熟知されていることや職員からも信頼が厚いことから、定年延長制度に基づき継続していただきました。

また、消防長につきましては、市外から通勤しているため、夜間に火災が起きたときなどの心配があるようですが、消防長は、これまで市民生活部長として危機管理監を兼任し、市と市民の安全を守るために、今まで支障なく職務を全うしてきました。そうした実績ある職員を消防長に任命しました。また、夜間の火災時には、副消防署長クラスが当直勤務し指揮を執ることになっており、必要に応じて消防署長もすぐに出動できる体制となっています。更に、大きな火災の場合には消防団の皆さんに協力を仰ぎ、出動してもらうなど、市民の暮らしを守る体制は整えていますので、支障はないと考えています。

質問（男性）

給付金に係る買い物券は、せっかく作ってもシャッターが閉まっている店が多いなど、市内の商店街では使える店が少ないので、大型店に流れてしまうのではないか。

回答（市長）

給付金に係る買い物券、いわゆるプレミアム付き商品券の発行でいちばんたいせつなことは、市内で買い物をしていただくこと、つまり市内経済の活性化です。これは大規模店も、商店街の小売店も同じことです。そこで、実施主体の商店街連合会では、市民に商店街で使ってもらうために何が必要か、現在、知恵を絞っているところで、具体案もあります。例えば、商店街で買い物すればお得になるとか、買い物券が抽選券にもなり、ダブルプレミアム券として旅行が当たるなど、さまざま出ています。そこで、市民の皆さんには、その案に賛同していただき、ぜひ商店街での利用にご協力いただきたいと考えています。

質問（男性）

市立病院の取り組みなど市民に知つてもらうために、病院の広報紙を図書館など公共施設に置いて PR し、赤字を解消した自治体病院もあります。蕨市でも同様に、そうしたことを行うことはできないものでしょうか。

また、市民の範囲は在住に限らず、在勤在学のかたも含まれてもよいと思うので、JR の改札付近などに市のスタンドを設け、市広報紙などを置き情報を提供し、市政に参加してもらうよう働きかけてもよいのではないでしようか。

回答（市長）

市立病院の広報紙は蕨市では発行していませんが、経営が厳しい状況などを含め、市民の皆さんには、いろいろ知つてもらう必要があるとともに、いっしょに市立病院のことを考えもらう契機となると考えられますので、こうしたご意見があつたことを市立病院担当職員に伝え、研究させていきたいと思います。

また、市の広報紙を JR の駅に置くことも担当に伝え、今後検討していきます。

質問（女性）

健康づくりのためにも市民体育館を利用したいと考えていますが、最近は市の事業なども含め、2~3か月先まで予約がいっぱいとして使えない日が増えました。また、20年来、月に4回、毎週水曜日の午前中に利用できていたのですから、使えないなら事前に教えてくれても良いのではないかでしようか。なぜ、一般のサークルや団体には使いづらくなつたのでしょうか。

回答（市長）

市民体育館の運営は、平成18年度から、民間のノウハウを導入して市民サービスの向上と効率的な運営を図る指定管理者制度によって財団法人蕨市施設管理公社が行っています。現在、同公社が市民体育館の運営方法をどのように行っているのかを担当を通じて実情を調べ、改善を検討していきます。

(教育委員会より：ご指摘いただいた体育館の件は、同じ建物の中に市民体育館と北町公民館が併設されていて、管理の方法は別になつていますが、現状を調査し、担当職員どうし連絡を密にして、きめ細かく調整を図るように改善をいたしました。例えば、会場がほかの団体、グループと重なる場合は、早めに連絡するとともに、公民館の部屋が利用できないかなど、具体的な調整を行うようにしました。

なお、後日、意見を聴いていただいた件が改善されたと、お喜びのお手紙を頂戴いたしました。)